

Sample

presented by dex-one.com

ドラマ創作のメカニズムを徹底解説

脚本家の脳ミソ

坂本博 [著]



はじめに [Introduction]

多種多様のドラマが放送されています。視聴者は劇的なシーンや台詞に固唾かたずを呑み、一喜一憂し、どんどん魅了されていきます。モノによっては流行語を生み、社会現象を巻き起こし、生きる糧として大きなエネルギーを与えてくれる、実に素晴らしい世界です。そして、その仕掛け人となるのが「脚本家」です。

ドラマ業界では「何か面白い話はないか!」と、年中アイデアを探し求めています。高額賞金による脚本コンクールの開催や、才能を育てるスクーリング、さらには業界に売り込むべくエージェントの誕生など、あの手この手を練り出しています。一方、テレビドラマを観たりラジオドラマを聴いて、自分なら「こう展開させる」とか「こんな台詞を言わせる」といった閃ひらめきがある人は、脚本を書くべく要素を備えた人です。

脚本家になりたい!

願望や目標を持ちながら、懸命に執筆活動に励んでいる人は少なくありません。そういった背景と、私の持ちうるノウハウを伝えたいという思いから、二〇〇三年春に、インターネット上の公式サイト『交心空間』内に「脚本@塾」を立ち上げました。

以来、どこでその存在を見つけたかはともかく、脚本家を目指す人たちが私のもとに集まり、掲示板や電子メールの限られた場ですが、発想のポイントや創作のあり方を伝え、さらには塾生が執筆した作品に則して議論を交わしてきました。

共通しているのは「書きたいという意欲は誰もが強く持っている」ことです。しかし現実には厳しく、意欲だけで秀作は生まれません。真の意味で「感動を与える作品を書く」には、創作過程で「根拠ある思考の積み重ね」が必要です。

本書は、「秀作を追求し、脚本家を目指す人」を対象に、私の蘊蓄^{うんちく}を交えながら執筆のメカニズムを解説します。実践として、少しでも参考になるよう願っています。

二〇〇五年六月

脚本家 坂本 博

はじめに Ⅱ

【第I部】ドラマ脚本概論 001

第1章 ドラマとは何か 003

ドラマは虚構の産物 004

許されないウン 005

ドラマは計算の芸術 007

第2章 ドラマ脚本の形式 011

脚本は演じるための指示書 012

テレビドラマ脚本の例 — 二〇〇字詰原稿用紙 — 013

ラジオドラマ脚本の例 — 二〇〇字詰原稿用紙 — 021

懸賞募集の原稿について 028

第3章 ドラマの考え方 031

【構成論】

- 脚本家の脳ミソ — 創作のメカニズム — 032
- 360度の観点を持つ — 平凡と斬新の境目 — 038
- 人物第一主義 — 人物像がストーリー展開を生む — 044
- 流動性脳ミソ — 変人のすすめ — 047
- 他人の脳ミソはオイシイ — イメージ展開の喜び — 050
- 転がる脳ミソ — 論理の展開と意外性 — 054
- 鼻水美人との一夜 — 伏線の災難 — 059

【執筆論】

- 人物を生かすも殺すも — テンポとキレのある台詞 — 065
- 映像と音の世界 — テレビとラジオの違い — 069
- 幻想感溢れる世界 — ラジオドラマは奥深い — 073
- 芳しい言葉との出逢い — 魅力的な台詞を求めて — 077
- いろはに保父へと — タイトルは言葉遊び — 080
- 思い出す脳ミソ — 回想の考え方 — 081
- もうひとつの創作能力 — 原作あつての脚本の考え方 — 093
- 別人の目を持つ — 脚本におけるPDCA — 097

このサンプル版は、本書 p.069の節を一部抜粋しました。

coffee break 102

【第II部】ドラマ脚本実践論 103

第4章 実際の脚本とその解説 105

テレビドラマ脚本『揺れる少女』 106

テレビドラマ脚本『揺れる少女』の解説 146

あとがき 185

せん。そこで一旦ドラマが寸断され、感情移入していたものが覚めてしまいます。やむを得ず使用するなら、簡潔に書いて台詞以上に惹き付けが出るよう心がけてください。

映像と音の世界——テレビとラジオの違い——

脚本家連盟主催の脚本通信教育者のセミナーに、講師として参加したときです。「台詞の書き方でテレビとラジオの違いはありますか」と質問がありました。

シーン中の設定で「A夫がB子に車の鍵を取って欲しい状況」を例に説明しましょう。

A夫「それ取って」

B子「はい」

テレビドラマ脚本はこれでいいでしょう。この台詞のとき、カメラワークとして「それ(車の鍵)」を映せば問題なく進行します。何を映すかは制作現場(演出家とカメラ担当者)の仕事ですから、作者が脚本執筆時にカメラワークまで書き込む必要はありません。

しかしラジオで「それ」と書いたのでは、作者のみ知っている内容であり、「それとは何」を

指しているのか、ドラマ化されたとき聴いている人には分かり（伝わり）ません。ラジオは『音だけで表現する』のが執筆の条件です。ラジオドラマの脚本ではこう考えます。

A夫「そこにある車の鍵取って」

B子「はい（と放る）」

SE ジャラジャと鍵が宙を舞ってA夫がキャッチする。

「それ」という曖昧な表現を「車の鍵」と明確にして、音の出る形で鍵を渡す方法を考えます。ラジオですから「放る」とか「キャッチする」行為は不適當ですが、演出上（効果音作成時の参考）の意味合いで書くときもあります。キーホルダーに他の鍵も一緒にしていると想定したら、放ったとき「ジャラジャラ」と音が出ます。これを『SE（効果音）』で伝えれば「放る」行為（渡し方）もイメージさせられます。

次に、車の鍵から「どこへ行くつもりか」と展開させ、その鍵を使って感情表現を織り込むとしたら、こう考えます。

A夫「それ取って」

B子「どれ？」

A夫「その車の鍵」

B子「どこ行くのよ？」

A夫「ちよつと……」

B子「女んところでしょうッ（と投げつける）」

SE 鍵が飛んできてドアに叩きつけられる。

カシヤンと音を立てて落ちる。

A夫「オォーこわァ……危ないだろう」

B子「私のことも、そうやって巧く交わしたつもりでしょうがッ」

女の嫉妬と鍵がドアに強く当たる音で、感情の高ぶり（投げ付けた）を表します。B子の最後の台詞は、鍵がA夫に当たらなかった状況より、A夫が鍵を避けた行動を物語っています。また嫉妬する女に加えて、その後女の執念がつきまとうよう「がッ」と残して伏線の台詞にしました。

では、これがテレビ脚本だとうなるか説明しましょう。

脚本家を目指す人は是非！ ドラマ好きのあなたへも是非！！



好評
販売中

▼ 詳細は下記サイトをご覧ください
<http://www.dex-one.com/>

ドラマ創作のメカニズムを徹底解説 脚本家の脳ミソ

坂本 博

Hiroshi Sakamoto

電子書籍サンプル版

PDF 編集・発行所

有限会社バディライヴ デックスワン事業部

〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-1 ASKビル2F

tel.03-3260-7461 fax.03-3260-7552 <http://www.dex-one.com/>

©2005 Hiroshi Sakamoto

illustr by (c)baba

produced by dex-one.com

Adobe Acrobat Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。本書の内容、画像一切の複写複製(コピー)・転載・転訳など著作権に関わる行為は、これを固く禁じます。 禁無断転載 production in Japan